

み~つけた



水上スケーター ~アメンボのふしぎ~



オオアメンボ 撮影日:2015/5/24 撮影場所:三島

オオアメンボって?

日本最大のアメンボで、体長は2.5cm程度。オスはメスよりも大きく脚も長い。最も長い脚は7cm程もある。木々に囲まれた池や流れの緩やかな小川などにすむ。成虫はおもに5月~10月にかけて見られる。



小川にすむシマアメンボ

夏の水不足から一転、秋は長雨となり弱い雨やどんよりとした天気が続きました。そんな日でも、池や水たまりでは、アメンボが元気に泳いでいました。ところで、なぜアメンボという名前がついたのでしょうか。実はアメンボの「アメン」は「雨」ではなく、「飴」のことを指します。アメンボはカメムシの仲間で、腹から匂いを出します。この匂いが昔ながらの水飴に似ていることから名づけられたといわれています。以前、ワークシヨップの参加者にアメンボの匂いを嗅いでいただいたところ、皆さん「なるほど!」と納得していました。アメンボが水に浮かぶことのできる秘密は脚にあります。顕微鏡で見ると、脚には細かい毛がびっしりと生えています。毛はワックスで覆われて水をはじくため、表面張力が働き水に浮くことができるのです。水面をスイスイと歩く姿はとてかわいらしく、小さな子どもにも人気の昆虫です。しかし、彼らはれっきとしたハンター。水面に落ちた虫が暴れると、わずかな波を感じて忍び寄り、前あしでがばっと取り押さえて、ストローのような口で体液を吸うのです。まもなく、アメンボは冬越しの準備を始めます。暖かな春を迎えるまで、水上のリンクは冬季休業といったところでしょうか。

じゅんじ

編集後記

皆様のお便りを一通一通読ませていただいています。毎月ハガキをいただくようになり、全てをご紹介できないのがとても心苦しいところです。今回は、以前お便りでご要望いただいた紅葉の名所を取り上げてみました。天気がいい休日には、紅葉狩りに出かけてみてください。広報誌は発行の1カ月前から取材を始めるので、旬な話題をお届けするには一工夫が必要なのですが、1つでも多く皆様のご要望にお応えできればと思います。(小林)

秋も深まってきました。この時期になるとおいしい食べ物のイベントやスポーツのイベント、文化のイベントが市内各地で次々に開催されています。食べ物のイベントばかり取材しているとおなか周りが危険なので、スポーツのイベントを取材しました。紙面でも紹介した「ペタンク」。以前から名前だけは知っていたのですが、実際に見るのは初めて。選手の皆さんが、狙ったところに次々と球を投げる技術と集中力には脱帽の一言でした。(興野)

図書館HP



図書館へ行こう!

そろそろこたつが恋しい季節。ゆったり読書はいかが?



NEW!

『世界の不思議な図書館』

著:アレックス・ジョンソン 創元社
訳:北川 玲



立派な施設を図書館と呼ぶのではなく、本がある場所を図書館と呼ぶ。型にはまらない、世界中のパラエティに富んだ、ユニークな図書館を紹介します!

本さえあれば、そこは図書館になる

『舞の海秀平と学ぶ 知れば知るほど大相撲』

著:舞の海秀平・はすまる・荒井太郎 徳間書店



力士の階級や給料、1日の生活、相撲部屋について、国技だけけど意外と知らないことが多い大相撲の世界。読めば大相撲が気になること間違いなし!

大相撲を知らないあなたへ

『メ切本』

著:小柳学 左右社



明治から現在に至る作家たちの締め切りにまつわる話だけを集めた究極の1冊。名作の裏で締め切りに追われる作家たちの本音が垣間見られます。

締め切りと上手に付き合うための参考書

『きせつで楽しい みんなの折りがみ』

著:新宮文明 日本文芸社



全ページカラーで折り方を紹介。折り紙が苦手な人もこの本を見れば絶対に折れます! 「さんま」がユニークでオススメです。ぜひ作ってみてください。

不器用さんも安心の1冊

『プーさんとであった日』

文:リンジー・マティック 訳:山口文生
絵:ソフィー・ブラッコール 評論社



クマのプーさんは本当にいたクマだったことを知っていましたか? 世界中で愛されるクマのプーさんの真実の物語。親子で読める、心温まるお話です。

受け継がれるお話をあなたへ

『ダーウィンと旅して』

著:ジャクリン・ケリー 訳:斎藤倫子
ほるぷ出版



自分の人生を自分で決めたい。親に渋い顔をされても近所の獣医師のもとへ通い知識を深めます。悩みつつも、明るくしなやかに人生を切り開く女の子の物語。

キラキラした未来のあるあなたに

イベント情報

「とびでるペンダント」を作ろう!

おはなし会の後に工作会を行います。ハサミを使った作業などはありませんので、小さな子どもでも安心して参加できます。

- ▶とき 11月19日(土) 午前10時30分~11時30分
- ▶ところ 塩原図書館 ▶対象 小学生以下
- ▶参加費 無料



わたしの1冊

『俺たちの古いじたく』

著:弘兼憲史 祥伝社黄金文庫



約6年間、黒磯図書館で書架整理などのボランティアをしている野上さんのオススメ。「本を読むのは、自分自身を振り返る大切な時間」と話してくれました。



野上隆夫 さん

著者の弘兼憲史は、団塊の世代のサラリーマンを題材にした漫画『島耕作』シリーズの作者。理想のサラリーマン像を描いた弘兼氏が、定年退職後の理想の過ごし方を記した1冊。「古い」への準備とはどんなものなのか。そもそも本当に必要なものなのか…。答えは本が教えてくれるはず。

▶問い合わせ 西那須野図書館 ☎(36)6001 黒磯図書館 ☎(63)9031 塩原図書館 ☎(48)7521